



区報さえき2.1号

P7・P8編集・佐伯区役所区政調整課
〒731-5195 佐伯区海老園二丁目5番28号
☎943-9703 ☎923-5098

ささえあい えがおあふれる きぼうのまち

佐伯区だより

広島市佐伯区役所

検索

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/saekiku/>

佐伯区の人口/140,648人(593人増)
佐伯区の世帯数/63,054世帯(866世帯増)
令和2年12月末現在(前年同月比)

コロナ禍でも応援します！ 魅力あるまちづくり



「河内の山と川の歴史」を発刊



完成した冊子



「やくし日曜日」を開催

日曜市の様子(昨年9月)

区は、地域の皆さんが行うまちづくりのための活動に対して補助金を交付し、支援しています。
園地域起こし推進課(☎943-9705、☎943-9718)

区の魅力と活力向上推進事業補助金

河内地区は、面積の約8割を占める山や、八幡川など地区内を流れる川の恩恵を受けて発展してきました。かつては木の伐採など山での仕事に従事する人が多く、また、八幡川を利用した紙すき工場や、水力を動力源とした紡績工場、発電所もありました。現在は、このような山や川に関係する仕事に従事する人は減り、当時を知ることでできる資料もあまり残されていません。

そこで、河内地区町内会連合会は、河内地区の山と川の歴史を学び伝えることによ

り、「郷土に誇りを持ち、河内を拓く新たなまちづくりの一助になる活動」を行ってきました。この活動の一環として、補助金を活用して初年度となる今年度は、「河内の山と川の歴史」という冊子を発刊しました。

同会の杉田精司会長(写真中央)は、「この冊子を通して若い世代の人が河内の歴史を知り、地域に愛着を持つきっかけにしたいです」と力強く語ります。

「まるごと元気」地域コミュニティ活性化補助金

薬師が丘連合町内会は、補助金を活用し、毎月第4日曜日に薬師が丘第一集会所の広場で日曜市を開催しています。補助を受けて4年度目の今年度は、コロナ禍でも感染防止対策を徹底し、活動を継続することができました。家庭菜園で採れた作物の販売や地元のパン屋などの出店に加え、島根県浜田市の水産業者の出張販売もあり、毎日にぎわっています。また、地域のグループで運営する休憩コーナーは、住民がゆっくりと語り合うことのできる交流の場となっています。

同会は今後も、感染防止対策を万全にして、出店や商品の品ぞろえをより充実させることで日曜市を一層盛り上げ、地域コミュニティの活性化につなげていく予定です。

令和3年度のまちづくり活動に補助金を交付します

事業名	補助対象
① 区の魅力と活力向上推進事業	地域の皆さんが、次のテーマに沿って、主体的・継続的に取り組む活動 ・自然と共生し、歴史・文化を体感できるまちづくり ・人に優しく、快適で安全・安心なまちづくり ・地域力を高め、元気で活力のあるまちづくり ・人が集い交流する、にぎわいのあるまちづくり
② 「まるごと元気」地域コミュニティ活性化補助事業	町内会・自治会、子ども会または地区社会福祉協議会が行う以下の活動 A 地域活性化プランの作成 B 空き家などを活用した住民間の交流拠点づくり C 空き地を活用した菜園・花壇づくり D プラチナ世代・リタイア世代などの地域デビュー支援 E 交流拠点におけるネットスーパー利用の環境づくり F 住民勉強会の開催 G 他の地域などとの交流を図る活動の実施 H 子どもたちの思い出づくりの取り組み I その他地域の活性化に資する地域独自の取り組み

【①の補助金額】

補助年度	補助率	補助限度額
初年度	3分の2以内	100万円
2年度目	2分の1以内	70万円
3年度目	3分の1以内	35万円

【②の補助金額】

活動	補助年度	補助率	補助限度額
A・B	一括補助	全額	50万円
	初年度	全額	10万円
C-I	2年度目	5分の4以内	8万円
	3年度目	5分の3以内	6万円
	4年度目	5分の2以内	4万円
	5年度目	5分の1以内	2万円

園所定の申請書を、2月①19日(金)、②26日(金)までに地域起こし推進課へ。応募の手引き・申請書は同課か市ホームページで
※交付の決定時期は全て4月以降です
園地域起こし推進課(☎943-9705、☎943-9718)

「未来に残したい佐伯区の地域資源イラスト・写真募集」最優秀作品決定！

区内を芸術的に染めるイベント「アートフェスタ佐伯区2020(昨年11月1日～30日)」で実施した、「未来に残したい佐伯区の地域資源イラスト・写真募集」の最優秀作品が決定しました。

最優秀賞を受賞した2作品は、佐伯区誕生35周年と旧湯来町の広島市との合併15周年を記念した記念切手シートのデザインとして採用され、2月下旬以降から区内や周辺の郵便局で販売されます。

園地域起こし推進課
(☎943-9705、☎943-9718)



イラスト最優秀作品
「We Love 湯来」
(河上志麻子さん作)



写真最優秀作品
「五日市港の日の出」
(大塚康弘さん撮影)

植物公園バックヤードだより⑦ カカオを育てる「苦～い」努力

今回はバレンタインデーにちなんで、チョコレート原料のカカオを紹介します。

カカオの栽培は気候条件が限定されるため難しく、赤道を挟んで北緯20度から南緯20度までの「カカオベルト」と呼ばれる地域で主に生産されています。

カカオの生産には適していない日本ですが、植物公園では大温室でカカオの木を栽培しています。カカオは、幹から直接小さな花が咲き、自生地や生産地では「ヌカカ」という蚊の一種の助けで受粉して、赤色や黄色の実を付けます。虫のいない大温室で実が付くには、人工授粉が必要です。人工授粉が成功して実が付く割合は1%未満とかなり低いです。しかし、職員は開花の翌朝に根気強く手作業で授粉にチャレンジしまし

た。その努力が実り、昨年11月に赤色の実が2つ、緑色(熟すと黄色)の実が5つ付きました。その実は2月現在、15cmほどの長さで育っています。ぜひ実物を観察しに来てください。

また、「カカオとチョコレートの秘密展」(2月8日(月)から14日(日)まで開催予定)では、より詳しくカカオやチョコレートについて学ぶことができますよ。

園植物公園(☎922-3600、☎923-6100) 休金曜日、2/1～7



カカオの実(大温室内)